

## 第68回青少年読書感想文コンクール

小学校中学年の部 特選

「これがぼくだもん」 熊取町立南小3年・井黒想来さん

ぼくもピンクがすき。かわいいスカートをお姉ちゃんがかいているのを見ると、はきたくなる。かわいいんだもん。お姉ちゃんが人形で遊んでいると一しょに遊びたいって思う。主人公のすばるの気持ちがよくわかる。すばるは学校で友だちにからかわれたけれど、ぼくもスカートをはいて行ったら同じようなことになるのかなと考えて家族会ぎをしてみた。『もし、ぼくが学校にスカートをはいて行くって言ったらどうする?』というのが家族会ぎのテーマだ。この本に出てきたすばるの母と姉は、はんたいしなかった。でも、ぼくの両親はまぢがいなくはんたいすると思っていた。それなのに、二人とも、

「いいんじゃない?」

と言うから、いすからひっくり返りそうなくらいびっくりした。でも、本当はすごくうれしかった。どうしてかと言うと、ぼくの家族はみんな、男の子でも女の子でも着る服やすきな色、すきな物はかんけいない、人それぞれちがっていていいって言ってくれたから。大事なものは人の心。どんなぼくでもすきって言ってくれたから。だからぼくはぼくらしく入れる。すばるも一しょだ。

人を見た目だけで、かっ手に決めるんじゃなくて、その人がどんな人なのか色んな角どから見たら、さい初のイメージとはちがう一面が見えると思う。家の三面きょうは正面から見たらぼくの顔は一つしかうつらない。でも、見る角どをかえたら顔がいっぱいうつたり、さっきまで見えなかったぶ分もうつる。かがみの角どをかえると、ふだん見えにくいぶ分が見えたりする。のぞけばのぞくほど顔がいっぱいうつる角どもある。すると、ただのかがみなのに面白くなる。これと同じようにぼくたちが人を見る時も色んな角どから見ると、さい初に見えてたのとはちがうぶ分が見えて面白く感じるかもしれない。その人のことをたくさん知ると仲よくなれると思う。人それぞれこせいがある。大事なものは、そのこせいをくらべるのではなくて、おたがいにみとめ合える方がすてきだと思う。

この本を読む前のぼくは、ピンクがすきとか、ぼくは虫がこわいとか、スカートってかわいいなと思ってるとか、友だちには、はずかしくて言えないことだと思っていた。でもこの本にあるみたいに人それぞれ感じ方がちがうこと、相手の気持ちを考えてみることで、こせいがいいこと、それがぼくのもち味なんだと思えば、はずかしくもない。ぼくはこの本にゆう気もらった。今ならはずかしいと思わない。

「これがぼくだもん」

とむねをはって言える気がする。男だからとか、女だからというかっ手な決めつけはいらないって思う。こせいってすてきだねとみとめ合えたり、ちがいをその人のもち味として自分らしく生きていける世界になるといいな。そしたら多くの人が仲よしになれると思う。次はぼくがだれかにゆう気を分けてあげたい。(「おれは女の子だ」本田久作／ポプラ社)